国際

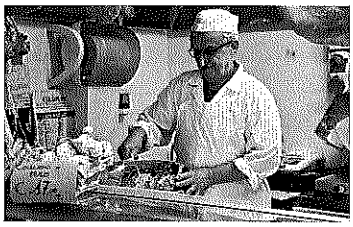
イタリア旅行の穴場・ノルチャ
最高のトリュフと生ハムを味わえる

↑今日採ってきたトリュフとアントニオさん。

ノルチャは、生ハムやサラミソーセージ、それにトリュフと、グルメには有名な町。2016年10月の地震で大きな被害を受け、一時は訪れる人が減ってしまったが、最近はレストランや生ハムメーカー、トリュフ探しも復活してきている。町を訪れると、日本では味わうことのできない美味を満喫することができる。

フォアグラ、キャビアと並び世界の3大珍味といわれるトリュフには、白と黒がある。白トリュフは、北イタリアのピエモンテ地方が産地だが、黒トリュフの産地は中部イタリア。特にノルチャ産は「ノルチャの高貴な黒トリュフ」と呼ばれ、味、香りが最高である。

趣味でトリュフ探しをしていたアントニオさんは、地震の後、トリュフ販売の会社を立ち上げた。3匹の犬がトリュフを見つけ、掘り出してくわえてくるのだそうだ。アントニオさんによれば、ポプラの根にできる黒トリュフは栽培が可能であり、最近は栽培ものが多いとのこと。しかし自然のものは香りが全く違う。ノルチャにはポプラの自然林が多く、土地の気候や気温が合っており、最高のトリュフが採れるのだそうだ。



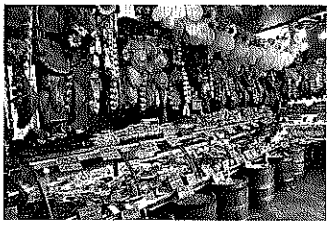
←生ハムをスライスするマリオさん。

ローマの日本料理店「すし千」の女将は「黒トリュフをお刺身と合わせるとおいしいオードブルができるし、おすしにも使える」と話す。

また、ノルチャの町はおいしい豚肉の加工食品でも有名だ。生ハムやサラミなどを製造している会社が多いが、昔からの方法で作っている店も2軒ほどある。カサーレ・リ・タッピのマリオさんは子どものころからこの仕事に携わり、30年ほど前に自分の店を持った。同時に、成長が遅く効率が悪くて最近は使われていない地元原産の黒豚の飼育も始め、昔の味を復活させた。家族で生ハムなど10種類以上のものを作っているが、量が少なくほとんどが店で売れてしまい、自分自身は店まで買いに行くか、地元のレストランでしか食べることができないという。

ノルチャは他では食べることができない美味、珍味が味わえる穴場である。

（茜ヶ久保徹郎・『社会新報』ローマ通信員）



➡生ハムやサラミソーセージなどがいっぱいの店、アンスイーニ。

医療の進歩は誰のため？

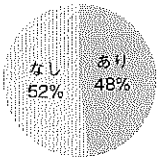
医療的ケア児を育てる親のアンケートへの回答（自由記述欄）から。

「医療的ケア児の育児は本当に大変です。この子は生きていて幸せなのか？　とも思います。／50年前、60年前なら今頃、この世に存在していなかったのだと思うと、医療の進歩は私たちにとって残酷さもあると日々考えます。周囲の何とも言えない視線にも耐えなければならず、この子さえいなければ私は、この視線を浴びることはないのだと思うこともあります」

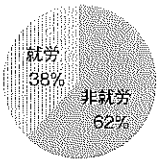
松澤さんは、「こういうことを書かせるような地域の支援状況」と指摘した。

出典：松澤明美・白木裕子・新井順一・平澤明美　2016・17年度文部科学省科学研究費助成金による調査研究事業「在宅療養するお子さんとご家族のケア・サービスのためのアンケート調査結果」報告書より

学齢期の障がい者の母親就労状況



主な養育者の就労の割合（医療的ケア児）



気軽に相談できる総合窓口を設けて

松澤さんは、「医療的ケア児は昔からいた」と指摘し、東大和市で青木鈴花さんが保育園入所を拒否された2005年の事件について触れた。拒否の理由は、気管切開をしているためにたんの吸引が必要なことだった。

鈴花さんの両親は入園の承諾を求めて市を提訴。記者会見では、鈴花さんが自分で吸引できることを実際にアピールしたという。松澤さんは「そこまでしないと医療的ケア児は保育園に通うことができないのかと思った」と語った。裁判では市が敗訴。その後は、きょうだいが通う地域の小学校へ通いたいという希望もかなった。現在、自治体によっては医療的ケア児の通園や通学の支援として看護師の配置を行なっているところもあるが、厚労省が示す「医療的ケア児の支援に向けた主な取り組み」には追いついていないのが現状だ。

親の就労状況についての実態調査では、9割以上の母親が就労希望を持っているが、実際に就労しているのはパートタイムを含めて半数弱であり、主な養育者ではパートタイムを加えても38%という結果だった。

医療的ケア児と家族が置かれている切実な現状が調査の自由記述欄からも見て取れる（上表参照）。

松澤さんは、医療的ケア児を育てる親の苦悩に向き合うためには「単に医療的なケアも伴う子育てと見るのではなく、親を、子どもの介護をしている人として認識し支援を行なっていくことが大切だ」と語った。

介護者支援条例が必要

シンポジウム後に行なったワークショップ「具体的なケアラー支援、あなたの提案」では、参加者からさまざまな提案が出された。中でも多かったのは、介護者が気軽に相談できる総合相談窓口を設置すべきだということ。また、介護者についての認識を拡げることが不可欠だという指摘もあった。

今後は、「介護」とは高齢者介護だけではないという認識が必要だ。全ての世代に関わる課題として介護者支援に取り組むことが求められる。そのためにも、自治体には介護者支援条例を、国には介護者支援法の制定を目指すことが強く求められている。

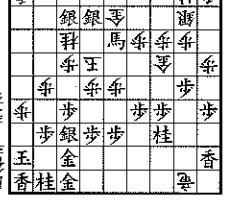
〈お正月パズル・懸賞問題〉解答と当選者

将棋

解答　▲5三角成

解説　先手玉は詰めろではありませんが、銀を渡すと詰んでしまいます。▲5三角成△同金に▲4二角が好手順で後手玉に必至が掛かり、角を渡しても自玉に詰みは無く、先手の勝ちとなります。

【解答図は▲黒5三角成まで】



■将棋当選者

応募総数24通で、正解は7通でした。当選者は次のとおり。

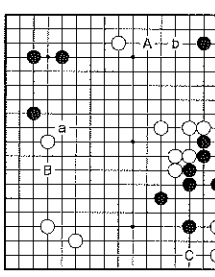
大内進（福島）、金田誠（福島）、菅井利充（福島）、相澤弘幸（千葉）、志茂正信（奈良）、今津真輔（岡山）、橋本詞央（福岡）。

＝敬称略

囲碁

解答　「A」

解説　黒番で「A」が正解です。黒「B」は白aと打たれ黒Bが攻撃目標にされます。黒「C」は不急の所です。白にbとひらかれ次にc等を狙われます。



■囲碁当選者

応募総数23通で、正解は12通でした。当選者は次のとおり。

笠原衛（山形）、室塚善規（福島）、山口武志（福島）、田中義夫（新潟）、清水正人（広島）、森定信善（香川）、笠原照久（愛媛）、中川正志（愛媛）、橋本詞央（福岡）、白石剛（熊本）、前川哲也（熊本）、渋木康雄（鹿児島）。

＝敬称略